

同志社大学

2015年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2016年 3月 13日提出

所 属	職 名	氏 名
政策学部	教授	月村太郎
研 究 題 目	ユーゴ後継諸国の対外政策と国際関係に関する研究	
研 究 成 果 の 概 要	<p>ユーゴ後継諸国における対外政策上最大のプライオリティの対象は依然として EU に置かれている。EU 加盟国のスロヴェニア、クロアチアは言うまでもないが、EU 加盟を希望している他の後継諸国についても同様である。しかしながら、2014 年のウクライナをめぐる騒乱後、EU による対ロシア経済政策が発動された為に、ロシアのユーゴ後継諸国への働きかけも高まっている。モンテネグロに対するロシアの影響力は夙に指摘されてきたが、EU 加盟に際してコソヴォ問題の解決という懸案を抱えているセルビアは、EU とロシアとの綱引きを利用して様々な利益を得ようとしている。例えば、セルビアに対しては EU が加盟交渉の加速化を示す一方で、ロシアは武器の輸出の強化を行っている。他方で、モンテネグロの NATO 加盟が決まったことは、ロシアの攻勢に対する EU の反攻の一例とも理解することができる。</p> <p>このように、EU とロシアとの微妙な駆け引きが行われているユーゴ後継諸国間の／をめぐる国際関係を一層複雑化させているのが、難民（難民認定との関連から、難民ではなく移民とタームを用いることも多いがここでは難民とする）問題である。シリア内戦に端を発した難民の発生は、EU 全体に大きな課題を提示しているが、中でも、難民の移動の経路にあたるユーゴ後継諸国では深刻な問題となっている。当初、難民の一般的なルートは、シリアやイラクからギリシャに入り、以後、マケドニア、セルビア、ハンガリー、オーストリアを経由して最終目的地のドイツに到着するというものであった。ギリシャには難民認定に関する資格審査は実質的に望むべくなく、マケドニア、セルビアも難民はほぼ素通りできたが、ハンガリーは姿勢を次第に強硬化し、対セルビア国境に沿ってフェンスを走らせることとなった。ハンガリー入国が不可能となった難民は、クロアチアからスロヴェニア、オーストリア、ドイツのルートに転じたが、クロアチアではすぐに一時的にせよ受入能力を超えることとなり、隣国のスロヴェニア、セルビアとの関係が悪化した。陸路での移動が困難になった場合、長い海岸線を持っているクロアチアには、今後一層の問題が迫ってくる可能性がある。更に、内戦発生国のシリアやイラクの難民のみならず、それに紛れてコソヴォなどの住民も越境しようとするのである。</p> <p>シリアやイラクの内戦の影響は難民だけでなく、IS の問題もある。特にボスニアには 400 人程度の IS 帰還兵士がおり、しばしば銃撃戦も行われているようである。更に、IS は、インドネシア、マレーシアの日本人と並んで、ボスニアの日本人への襲撃も指示している。</p> <p>ただでさえ懸案を有しているユーゴ後継諸国は、シリア、イラク内政の影響を今後も強く受けることになるだろう。</p>	